

作文例②

「一段落目」自分にとって日本語はどんな存在か、簡潔に示す。

(例)

私にとって日本語は、日本人とコミュニケーションをとったり、日本語の本や漫画やドラマを見たりするために使う道具だ。

「二段落目」一段落目に提示したことについての説明。

(例)

私は日本人の父と台湾人の母との間に生まれたハーフだ。子供の時から日本語と中国語という二つの言葉を覚え、使ってきた。小学校の中学年ぐらいまでは台湾の学校に通い、その後は現在まで日本人学校に通っていて、一応どちらの言葉もネイティブとして使うことができる。でも、中国語を話すからといって私は台湾人であるわけではなく、日本語を話すからといって日本人であるわけでもない。中国語は台湾人とコミュニケーションをとり、中国語を聞いたり読んだりするための道具だし、日本語も、日本人と話し、日本語を読み聞きするための道具だ。どちらの道具も、持っていて本当に便利だ。二つの言葉が使えるということは、一つの言葉しか使えない人の二倍、広い世界を持っているような気がする。

「三段落目」具体的な例や体験を挙げながら、意見を展開する

(例)

日本語を話せることが、日本人である証明になると言った人がいる。が、私は違うと思う。英語は世界中で使われているが、英語を使っている人がみんなアメリカ人やイギリス人、カナダ人やオーストラリア人なわけではない。日本人にも英語がペラペラな人はたくさんいる。台湾人にもたくさんいる。英語が話せても、日本人がイギリス人になれるわけではない。台湾にはアメリカなどに移民する人が結構いるようだが、英語が話せる人がみんな移民するわけではない。日本語だって同じだ。世界中のたくさんの人が日本語を勉強して、日本人と日本語でコミュニケーションできたら素敵だが、日本語を話せるようになったからといって、その人たちが日本人になりたいと思うわけではないと思う。日本語を話せても、アメリカ人はやっぱりアメリカ人だし、フランス人はフランス人、ドイツ人はドイツ人、台湾人は台湾人だ。

では、日本語と中国語が話せ、日本人と台湾人のハーフである私は、いったい何人なのだろうか。父と母は、私は日本人であり、台湾人であるという。私もそう思っている。でも同時に、私は日本人でも台湾人でもなく、私なんだと思う。そして、それで困ることはない。私は日本語が好きだし、中国語も好きだ。実のところは、好きなテレビや音楽や漫画は日本のものばかりだし、最近ほとんど日本人の友だちとばかり付き合っていて、私の中では日本語の比重が大きくなっている。だが、今生活しているのは、台湾であり、やはり毎日中国語は使う。どちらが好きかなんて選べないし、選ぶ必要もない。言葉はただの道具なのだから。

「四段落目」結論・まとめ

(例)

私にとって日本語も中国語も、私の世界を二倍にするとても大事な道具だ。私は今、私の世界を更に広げられるように、英語という道具もマスターしたいと思っている。